

長寿社会 人生には介護生活も認知症もあり

70歳の女性の平均余命は89.6歳とほぼ90歳になりました。しかし心身の衰えはすすみますから女性には平均して6年半の介護生活があります。85～89歳の80歳代後半の女性では、45.9%の方つまり2人に1人が要介護認定を受けていて自分の力だけでは生活できませんし、29.4%の方が認知症と診断されています。90歳以上の女性では71.9%と4人に3人位は要介護認定になり、53.6%つまり2人に1人は認知症です。寿命が長くなりましたので、晩年には誰にも介護生活や認知症になる可能性があります。

「ぴんぴんころり」などと言って、晩年の介護や認知症から眼をそむけていては、介護に直面したとき適切な対処ができません。介護される人、介護する人になったとき、様々な介護サービスを的確に選んで負担の少ない介護生活を送れるよう、早くから介護サービス情報に通じておくことが必要です。また、人生の終わりには誰もが安心してその人らしく暮らせるよう、介護サービスの整備や福祉の地域づくりが必要です。日本社会はまだまだ不十分です。

